

9月19日を忘れない 全国1000か所以上で声あがる

自衛隊員を戦地に送るな

戦争法廃止

9条を守り、いかそう

9月19日、国会前には23000人が集まりました。同時に全国1000か所で、集会・宣伝行動・パレードなどがおこなわれました。安倍政権が憲法違反の戦争法を強行した9月19日から1年。その怒りを、私たちは忘れません。

戦争法は、日本が攻撃されてもいないのに、アメリカなどの戦争に協力して参戦するための法律です。国民を守るものではありません。安倍政権が口実にしていた「抑止力の強化」は実現したのでしょうか。結局、中国や北朝鮮をより刺激することになったのではないのでしょうか。

いま、戦争法ではなく、9条にもとづく平和外交こそ求められています。

南スーダンに内戦状態

自衛隊を戦場に送ってはならない

南スーダンPKOに派遣される自衛隊に、戦争法にもとづき「駆けつけ警護」や「宿営地共同防護」の任務が追加されようとしています。激しい戦闘が続く南スーダンは、まさに戦場です。そこで自衛隊員が任務遂行のために武器を使用すれば「殺し殺される」深刻な事態が起こりかねません。「戦地に行かせるために息子を育てたわけではない」隊員の母親の叫びです。自衛隊員・青年を戦場に送ってはなりません。憲法違反の戦争法は今すぐ廃止すべきです。

政府は国民にしっかりと説明すべき

1年前、国民の8割の「説明不足だ」という声を無視して戦争法を強行した安倍政権。その後も、説明はないままです。



国民は納得していません。臨時国会の所信表明演説でも、自衛隊員やその家族の不安にこたえる説明はありませんでした。国民に説明しないまま、民意を無視して、戦争法、TPP参加、沖縄の基地建設などに暴走する安倍政権。さらに参院選で一言も言わなかったのに、「改憲」に踏み込もうとしています。主権者は私たち国民です。だまし討ちは許されません。

シリーズ②
自民党改憲草案を斬る

憲法の主体を「国民」から「国」へ
180度逆立ちした自民党改憲草案

日本国憲法前文は「国民」から始まりますが、自民党の憲法改正草案前文は「日本国」から始まります。憲法の主体を「国民」から「国」へと180度転換するものです。

憲法は本来、権力を縛り、国民を守るものです。ところが、自民党改憲草案は国民を縛り、権力を守るものとなっています。これでは「憲法」とは呼べません。